第２学年○組国語科学習指導案

　令和３年１１月○日（○）第○校時

　活動場所　　　　　○　○　○　○

　授業者　教諭　　　○　○　○　○

１　単元名・教材名

　人物になりきって読もう　「扇の的―「平家物語」から」

２　単元について

（１）教材観

「平家物語」は中世には「平曲」として広く語られ、現代でも多くの人達を引きつけている。それは、単なる出来事をなぞるだけにとどまらず、その歴史的事実の背景に登場人物それぞれの人間の生き様がいきいきと描かれているからである。学習の際はまず、その作品自体が持っている面白さを存分に味わうべきだと考える。古典の学習は現代語訳の確認に終始してしまうことも多いと考えられるが、本教材は、古典を文学作品としてより深く読むことが可能である。

今回取り上げる「扇の的」の場面では、屋島合戦の命運を任された那須与一の活躍が描かれる。直接的な心情表現はほとんどなされていないが、与一の言動や置かれた状況、情景描写などを丁寧に読み取ることでその心情に迫ることができると考える。既習の文学作品で学んだ人物の心情の捉え方を活かし、現代語訳も十分に活用しながら読み進めることで、生徒の汎用的な読解力が育成できる教材である。

（２）生徒の実態

4月に実施された令和3年度埼玉県学力・学習状況調査の平均正答率を見てみると、国語科全体では、県が63.1%に対し、本校は○%であった。また古典では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題」「古典の中の登場人物の言動として適切なものを選ぶ問題」の2問が出題されているが、いずれも正答率は県平均に届いていない。特に「古典の中の登場人物の言動として適切なものを選ぶ問題」については県の平均正答率が64.4%なのに対し、本校は○％である。「本文または問いに書かれている情報を正確に読み取り、解釈する力」に課題があることが分かる。

今年度、古典においては1学期に「枕草子」の学習を行った。第一段「春はあけぼの」では歴史的仮名遣いなどの基礎知識を確認し、現代を生きる私たちの季節感との比較から、作者のものの見方や感じ方について考えた。第百四十五段「うつくしきもの」では、内容を正確につかむために主語に注意して読むことを学習した。また文学的文章においては、1学期に「アイスプラネット」、2学期に「夏の葬列」の学習を行った。文学的文章の「汎用的な読み方」として、「①人物どうしの関係や置かれた状況をとらえること」「②人物の心情や考え方が分かる表現に注意して読むこと」「③登場人物の言動の理由や意味を考えること」「④作品全体における主人公の内面の変化をとらえること」の4点を示し、同じ読み方を使って2つの文学的文章を読んだ。文章が異なっても「読み方」は同じであることを学んだ。

　10月に実施したアンケートの結果では、2学年全体の内、71％の生徒が、「文学的文章を読む際、注目すべき言葉や読み取るべき内容を意識している。」と答えており、「読み方を意識した読み」が少しずつ定着してきている。しかし実際のところ、「読み方」は何となく分かってきたものの、文章を読む際にそれを具体的に活用できていないというのが現状である。教科書レベルの文章の内容を正確に読み取れる生徒がいる一方で、漢字や語彙に大きな課題がある生徒も一定数いるため、「読み方」を使うための土台も同時に整える必要がある。またアンケートからは、古典に対して「難解なもの」というイメージを持つ生徒が全体の7割に上ることや、「読むのが面倒だ」と考える生徒が一定数いることも分かった。

（３）指導観

①文学的文章の「読み方」を意識させる

状況設定をつかむこと、心情を読み取る上での手がかりとなる表現に注目することなどの観点を提示し、「平家物語」でも同じように意識して読ませる。

② 「根拠・理由・主張」を用いさせる。

　課題の解決に必要な情報を文章から取り出し、情報を解釈し、それを基に自分の考えを述べるための型「根拠・理由・主張」を提示し、課題に取り組む際に意識的に用いさせる。

③ 学習課題を、シンプルかつ、読みへのモチベーションが高まるものにする。

古典は難解で面倒だという生徒が少しでも取り組みやすくなるよう、課題をシンプルなものにし、自分にもできるかもしれないと思わせるようにしたい。また読みへのモチベーションを高めるために、言語活動を「『平家物語』を那須与一の日記に書き換える」とし、目的意識を持たせていく。

３　本研究の視点との関連について

（１）「学びの活動」の充実について

　主体的・対話的で深い学びを実現し、「学びの活動」を充実させるために、まず、身につけたい力を明確にし、それに適した言語活動を設定するようにしている。さらに、各授業では始めに「めあて」を示してゴールを全体で共有し、「見通し」として「今まで学んだ考え方や知識の中で何を使えば今日の課題を解決できそうか」を考えさせてから、「学び合い」に入るようにしている。

　日々の授業では、学習内容の転移を期待し、他教科や他単元でも活用できる「考え方や方法」を積極的に伝えるようにしている。また共通の「考え方や方法」があると、「学び合い」の際も同じ観点を持つことができるので、生徒どうしの意見やその根拠の違いが焦点化しやすく、話合いの中での深まりも期待できる。

古典を文学作品として読み味わえるようになることを目指す本単元では、以下のような既習の「考え方・方法」を「見通し」として持たせ、「学び合い」で活用させたい。

①登場人物の心情や考えが読み取れる描写

文章にはその種類に応じた読み方があり、ただ漫然と読んでいるだけでは読み解いたことにはならない。そこで、文学作品を学習する際は、次のような登場人物の心情や考えを読み取るための描写を生徒に示し、意識させるようにしている。

|  |  |
| --- | --- |
| 感情を表す言葉 | 「うれしい」「不満」など、気持ちを直接表したり、思っていることを説明したりする。 |
| 行動・様子 | 行動は心情を表す。「スキップする」＝楽しい気分である　等 |
| 会話文 | 発言したときのその人の気持ち、相手に対しての気持ちがわかる。口調や呼び名からも相手への気持ちや相手との関係性がわかる。 |
| 情景描写 | 風景や天候、明暗や色でも心情を読むことができる。 |

なお、これらの描写は、教科書巻末の「文学的な文章を読むために」の内容を参考にした。国語の学習時のみならず、様々な文学的文章を読む際に汎用的な力であり、生徒たちが少しずつ使えるようにしていきたい。

② 「根拠・理由・主張について」

学習課題の具体は以下のようなものである。

学習課題　次の短歌の季節はいつか。「根拠・理由・主張」を用いて考えよう。

不来方のお城の草に寝ころびて空に吸はれし十五の心　　石川啄木

根拠：歌の中の「お城の草に寝ころびて空に吸はれし」という言葉。（本文理解、情報の取り出し）

理由：寝ころべるくらい草の丈があるとすれば、草の生い茂る夏か秋だと判断できる。また「空に吸はれし」という言葉から、空が高く見えたと解釈できる。「天高く馬肥ゆる秋」という言葉があるように、秋は空が高く見える季節である。（記述を基にした解釈）

主張：季節は「秋」である。（自分の考え）

「根拠・理由・主張」は、本文の記述に立ち返って考えるという「読むこと」の基本にして最も重要な思考方法を常に意識させることが出来るという点で非常に有効である。さらに、読み取った内容を交流する際は、「どこを根拠とし、どのように解釈したのか」を比較させることで、より妥当な読みに近づくことができると考える。

（２）「まとめ」・「振り返り」の充実について

　「まとめ」では、生徒と授業者で、本時の「めあて」に対して、何を学んだかを確認・整理している。1時間の思考の流れを板書に残し、授業の終わりに、生徒に本時の学習のキーワードを発表させ、それを基にまとめの文を作る。まとめは、ノート、ワークシート、振り返りカード等に書かせ、学習内容の定着を図っている。「まとめ」が他単元の「見通し」や「学び合い」へとつながるように意識し、授業内容を構想することが重要だと考える。

　「振り返り」では、生徒が個人で学習を振り返り、振り返りカードに記入する。「振り返り」に書かれるべきこととして、できるようになったことや学びの良さの確認や実感、わかったことやわからなかったこと、新たに出てきた質問、考えたことや感じたことなどが挙げられる。授業で使用する振り返りカードには、友だちとの関わりでの共通点や相違点等「①考えたこと・感じたこと」と「②質問」を記入する欄を設けた。①については必ず記入させ、②は何かあれば記入させることにしている。生徒の振り返りの中で新たな視点を与えるものは、教科通信に載せたり、次時の冒頭で紹介したりして共有できるようにする。また、振り返りは授業を受けた生徒の生の声であるため、授業改善にも活用している。

４　単元の目標

⑴現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〈知識及び技能〉（３）イ

⑵登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉Ｃ（１）イ

⑶文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　〈思考力、判断力、表現力等〉Ｃ（１）オ

⑷言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや

考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〈学びに向かう力、人間性等〉

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ➀現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。  （⑶イ） | ①「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。  （C⑴イ）  ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりしている。（C⑴オ） | ①粘り強く本文から根拠を探すと共に、既習事項を踏まえて内容を解釈し文章にまとめようとしている。 |

６　本単元における言語活動

・解釈を生かして本文を作中の人物の日記に書き換えるとともに、作品に対する自分の考えを述べた短い文章を書く。

７　指導と評価の計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 学習内容 | ○指導上の留意点・【評価】 |
| １ | 〇学習の見通しを持つ。  〇解説部分の内容を読み取る。  〇歴史的仮名遣いに注意しながら本文を音読する。  〇「扇の的」の場面に関わる背景知識を確認する。 | ・歴史的仮名遣い | 〇日記を書くというゴールを示し、何が必要か考える。  〇古典を読み解くには背景知識も大切であることを強調する。  本時は〔知・技〕中１⑶アに基づくが、単元の目標として設定していないため、評価しない。 |
| ２ | 〇現代語訳や語注を用いつつ本文の内容を捉える。  〇本文をもとに、与一の置かれた状況を図示する。 | ・現代語訳や語注を用いた内容の把握 | 〇古語や、わからない語句の意味もここで確認する。  【知識・技能①】  ワークシート  ここでは、現代語訳や語注を用いながら、本文の内容を正確にとらえられているかを見る。 |
| ③ | 〇「心情を読み取る四つの観点」、「根拠・理由・主張」を用いて、「扇の的」の場面の与一の心情や行動の意味を考える。 | ・登場人物の心情、言動の意味を解釈する方法 | 【思考・判断・表現①】  ワークシート  ここでは、言動に表れた与一や人々の心情、考えを文章の描写を基にとらえているかを確認する。  【主体的に学習に取り組む態度①】  振り返りカード・ワークシート  ここでは、振り返りカードに既習事項を踏まえて、解釈した跡が見られるか、ワークシートにクラスメイトの意見をメモしているかを確認する。  ※【主体的学習に取り組む態度】は、３・4時で評価する。  〇モデルや書き出しを示す。  〇与一の日記には必ず「源氏の武士たるもの…」という言葉を入れさせ、与一の見方や考え方に迫れるようにする。  【知識・技能①】  ワークシート  ここでは、前時までの登場人物の心情の解釈を生かし、「作品に表れたものの見方や考え方」に触れながら、文章にまとめているか。また、その内容が本文に即したものになっているかを確認する。 |
| ４ | 〇既習事項を生かし、扇の的の場面を与一の日記に書き換える。  （前半部分の書き換え→読み合い→読み合いで他から学んだことを使って後半部分を書き換える） | ・古典に表れたもの見方や考え方を解釈する方法 |
| ５ | 〇単元のまとめをし、平家物語の面白さは何かを考える。 | ・作品に表れたもの見方や考え方について、考えを深める観点 | 【思考・判断・表現②】  ワークシート  ここでは、作品に表れたものの見方や考え方と自分の知識や経験とを関わらせて、「当時と現代との違い」「作品としての面白さ」について考えたことを文章にまとめているかを見る。 |

８　本時の学習（３／５）

⑴目標

○登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。

　〈思考力・判断力・表現力等〉Ｃ（１）イ

○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや

考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〈学びに向かう力、人間性等〉

⑵評価規準

　「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。

【思考・判断・表現】

　粘り強く本文から根拠を探すと共に、既習事項を踏まえて内容を解釈し文章にまとめようとしている。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 【主体的に学習に取り組む態度】

⑶展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 学習内容 | ○指導上の留意点・♦評価 |
| め  あ  て  ・  見  通  し | ①本時のめあてをつかむ  めあて　本文の記述にこだわり、古文の人物の心情や考えを解釈しよう。  ②「四つの心情が読み取れる描写」を用い、「根拠・理由・主張」で考えることを確認する。 | 〇人物の考えや心情が分かる描写 | ○四つの観点について、実例を挙げながら復習する。 |
| 学  び  合  い | ③本文を音読する。  ④発問１について考え、話し合う。  ・個人で考えた後、どちらの立場を選んだか、挙手する。  ・グループで考えを出し合う。  ・全体で「言える」「言えない」それぞれの立場から意見を出し、蓋然性の高い解釈を考える。  発問２　与一は「年五十ばかりなる男」を射殺す時、嫌々引き受けたのか、そうではないのか。  根拠・理由・主張の3点セットで答えよう。  ⑤発問２について考える。  ・個人で考える。  ・グループで考えを出し合う。  ・全体で「嫌々だった」「嫌々ではなかった」それぞれの立場から意見を出し、蓋然性の高い解釈を考える。 | 〇本文の描写を根拠にした登場人物の言動の意味の解釈の仕方  〇情景描写の読み取り方  〈注目させたい描写の例〉  自信があったと言えない  ・「てまえの力では及びませぬ」と一度辞退  ・「北風激しくて」「波も高かりけり」「扇もくしに定まらずひらめいたり」「沖には平家…。陸には源氏…。」  自信があったと言える  ・「弓切り折り自害して、人に再び面を向かふべからず。」  ・「風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなったりける」  ・「よっぴいてひやうど放つ」  〇本文の描写を根拠にした登場人物の言動の意味の解釈の仕方  〇情景描写の読み取り方  〈注目させたい描写の例〉  嫌々でなかった  ・「御定ぞ、つかまつれ」といわれてから、ためらいなく射抜いている。断っている行動描写やせりふはない。  ・「かぶら矢」ではなく、戦闘用の「中差」を使っている。  ・「平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり」 | ○歴史的仮名遣いの読み方に注意する。  発問１　与一は扇を射貫いたとき、自信があったと言えるか、言えないか。  　　　　「根拠・理由・主張」で答えよう。  ○現代語訳を使っても良いこととし、複数の「根拠と理由のセット」を出させる。  ○グループで考えを出し合ったものを、メタモジクラスルームで１つのシートにまとめる。  →説得力の高いと思うものに投票。  →なぜ説得力があると考えたのかを口頭で発表させる。  〈生徒の発言をつなぐ発問の例〉  ・この班の意見はたくさん票を集めていますが、何で説得力があると思ったのですか？  ・〇班の意見にはあまり票が入っていませんが、〇班の人どう思う？  ・同じように解釈できるほかの根拠はありますか？  ・この解釈とこの解釈は矛盾していますが、どうすればまとまりますか？  ○発問２は「嫌々引き受けた訳ではない」に偏ることが予想される。（実際に「嫌々でない」が妥当な解釈である。）「なぜ嫌々でなかったのか？」と問い、与一の見方考え方に関連付ける。  〈生徒の発言をつなぐ発問の例〉  ・どんな考えや思いからためらいなく射抜けたのでしょうか？  ・そのような思いだと判断できる根拠は他にありますか？  ・この根拠とこの根拠をあわせて考えるとどんな解釈ができますか？  ♦評価規準【思・判・表➀】  ワークシート  ここでは、言動に表れた与一や人々の心情、考えを文章の描写を基にとらえているかを確認する。  〈「努力を要する」（C）の生徒への手立て〉「４つの描写」を探させ、自分だったらどんな感情になるか問う。  　クラスメイトの意見でなるほどと思ったものをワークシートに記入させる。 |
| ま  と  め | ⑥本時のまとめをする。 | まとめ　  「心情が分かる描写」を明らかにして「根拠・理由・主張」を使えば、古文の人物の心情も読み  取れる。  「情景描写」はその人物のから見た景色であることを踏まえて、心情を推測するとよい。 | ○キーワードを発表させ、まとめの文を作る。 |
| 振  り  返  り | ⑦本時の振り返りを書く。 | 期待される生徒の振り返り  一見難しそうな古典も、現代文の小説と同じように、「心情が分かる描写」に気を付けて読めば、人物の心情や考えが読み取れることがわかった。  「情景描写」は、その時の人物の置かれた状況や、前後の言動と関連付け解釈する必要があるとも思った。  今日読み取った与一の心情や考えを生かして、次回、良い日記が書けるようにしたい。 | ○振り返りカードに、振り返り（課題解決のために工夫したこと）について記述させる。 |

９　板書計画

扇の的―「平家物語」から

めあて 本文の記述にこだわり、古文の人物の心情や考えを解釈しよう。

見通し・心情が分かる描写

　　　　感情を表す言葉　会話文

行動・様子　情景描写

　　　・根、理、主

学び合い　Ｑ１　与一は　自信あり

　　　　　　　　　　　　自信なし

・自信がない。緊張する。

・覚悟を決めている…自信のない自分を何とかしようとしている。

・「風も少し～射よげにぞなったりける」

　与一が見ている景色…行けそうだ！

・十分に引き絞る…力強さと自信あり。

Ｑ２　与一は　嫌々　　　　　射た

　　　　　　　嫌々でなく

・「かぶら矢」と「中差」

　　　　　　　　　＝戦闘用の矢

・平家は「音もせず」…信じられない。

　源氏は「どよめく」…よくやった！

　＝戦いに対する考え方が異なる？

まとめ　「心情が分かる描写」と「根、理、主」を使えば、古文の人物の心情も読み取れる。「情景描写」はその人物のから見た景色であることを踏まえて、心情を推測するとよい。

１０　参考文献等

・佐藤佐敏『思考力を高める授業　作品を解釈するメカニズム』（三省堂、2013年）

※本時の発問は佐藤（2013）のp.114~122の内容に拠ったものである。生徒の実態を踏まえ、４つの観点を提示している点が本校独自の取り組みである。

・菊池麻理「２学年／読むことと書くことがつながる翻作表現活動―「扇の的」を日記に書き換える―」『実践国語研究2012年1月号』（明治図書・2012年、1月）千葉市立おゆみ野南中教諭（当時）